

令和3年度第3回小田原市環境審議会

議事概要

- 1 **日時** 令和4年3月29日（火）10：00～12：00
- 2 **場所** 小田原市役所 3階 全員協議会室
- 3 **出席委員**（11名）
田中委員(会長)、森委員(副会長)、奥委員、杉山委員、増原委員、下田委員、尾崎委員、福澤委員、岩村委員、増田委員、人見委員
- 4 **欠席委員**（1名）
高橋委員
- 5 **出席職員**（12名）
環境部長、環境部副部長、環境部管理監、環境政策課長、環境政策係長、ごみ減量推進係長、環境政策課係員2名、エネルギー政策推進課長、エネルギー政策推進課副課長、環境保護課副課長、環境事業センター所長
- 6 **傍聴者** なし
- 7 **審議事項**

ア 小田原市環境基本計画の策定について

・基本計画策定検討部会の経過報告について（資料1）

部会長から資料1に基づき報告を行った。

質疑等はなし

・新たな「望ましい環境像」について（資料2）

事務局から資料2に基づき説明し、協議を行った。概要は次のとおり。

委員	第1次、第2次計画のものから修正を繰り返し、今回、重点的に小田原が取り組んでいる「森里川海」というキーワードが入っており部会案のとおりで良いと思う。
会長	計画本文と合わせてみると、「森里川海」に中点（・）が入っている箇所と入っていない箇所があるので統一されたい。 「望ましい環境像」は2030年の絵姿、到達する状態を描いていると思われ、「継承する」という文言はやや保守的な印象がある。「恵み豊かな」等も良いのではと考えるが、「継承」は総合計画でも用いており、

	悪くはないと考える。
--	------------

・素案について（資料3）

事務局から資料3に基づき説明し、協議を行った。概要は次のとおり。

委員	39 ページに、取組の柱 12 本と主な取組 60 本などを挙げていただいている。現行計画では重点プロジェクトとして特出ししている取組があるが、新たな計画では重点施策のようなものはあるのか。どの取組を積極的に取り組んでいくかという意思表示としてもあると良いのではないか。
事務局	重点プロジェクトは現時点で設定していないが、今後検討し、どのように選択し位置付けるか検討したい。
委員	46 ページの詳細指標「電気自動車普及台数」について、昨今の電力の非常事態や災害などによる停電なども懸念され、実現していただきたいが、実際にできるのか危惧する。どのように実現していくかお考えがあればお聞きしたい。
事務局	電気自動車の普及はここ 10～20 年伸び悩んでいる状況だが、現状の約 300 台をもとに、令和 4 年度に 100 台増、令和 5 年度にその倍で 200 台増、令和 6 年度にさらにその倍で 400 台増と、倍々で増加を見込み、それを足して概ね 1000 台としている。 なお、長期の目標として、新たな温対エネ計画では 2030 年の目標を乗用自動車の 1 割である 9000 台を目指すことを掲げている。
委員	これまでの取組の評価や市民アンケートの結果を踏まえ、取組に緩急つけてはどうか。重要度は高くとも満足度が低い項目がまだあり、それらを考慮して今後の取組を検討してはどうか。
事務局	アンケートから見える重要度や満足度をさらに整理し、取組内容への反映を検討したい。
委員	計画として立派だが、市民に何を求めているかが分かりづらい。市民に協力いただきたいことが読んで分かると良いのではないか。自動車の使用を控える等ポスターやスローガン等で周知するという手もある。 また、二酸化炭素の削減とエネルギーの削減の関係はどのようなものか。エネルギー使用の削減は経済的にも影響があると思われる。

事務局	<p>1点目について、計画を作っただけでは市民に届かないので、周知やPRも実施していきたい。多くの分野にわたるためどう伝えるかが重要であり、HPや広報紙を使って、「こういう行動をしてほしい」というアクションにつながる周知のしかたを検討していきたい。</p> <p>2点目について、新たな計画において50%削減を目指すのが二酸化炭素排出量の目標で、部会長からの報告で触れられた省エネ目標40%削減を目指すのがエネルギー使用量の削減目標で、これは現行のエネルギー計画に記載しているものである。</p>
委員	<p>いろいろな尺度が出てきて分かりづらいため、一本の方が分かりやすいのではないかと。エネルギーの使用は太陽光発電を使うなどでき、工場などエネルギーを使う場合には再エネを使うという方法もある。</p>
会長	<p>次の審議事項である新たな温対エネルギー計画において検討していく事項であると思う。</p>
委員	<p>電気自動車普及の目標値など数値としては分かるが、具体的にどう達成していくのか。公用車の何割を電気自動車に変え、停電した際にこのように有効活用していくかなど教えていただきたい。</p>
執行部	<p>積み上げた数値としては持ち合わせていないが、市としては若干ながら電気自動車の購入補助を行っている。また、EVシェアリングサービスを全国に先駆け実施しており、利用してもらうことでEVの良さや利便性を知ってもらい、買い替えの啓発やライフスタイルの転換にもつなげていきたいと考えている。自動車メーカーも電気自動車のラインナップを増やしていくというような業界の取組の後押しもあり、普及台数は増えていくと見込んでいる。</p> <p>市では数十台の公用車も保有しており、リース契約の切り替え時にEV導入の検討を位置づけることも行いたい。その他、様々な施策を総動員して進めたいと考えている。</p>
副会長	<p>部会での協議を経て作成されたものなので、これでよろしいのではないかと思う。</p>
会長	<p>章や項目名に「～について」は不要である。</p> <p>第3章が一番肝心な部分であり、6つの施策の柱があり何を重点的に取り組むかは検討されたい。</p> <p>「望ましい環境像」の部分と4つ目の「取組内容」の具体的な施策</p>

	<p>の展開部分とを章で分けてメリハリをつけてはどうか。</p> <p>「施策2 多様な主体の育成・活躍推進」となっているが、これまでは環境保全活動や環境配慮活動といった表記が用いられているが、「活動」ではなく「活躍」の推進で良いかは確認されたい。</p> <p>成果指標は「6つの施策と目標」に連動し、12の「取組の柱」ごとに詳細指標があるのか。もしくは「主な取組」の指標として「詳細指標」があるのか分かりにくいため確認したい。</p> <p>「成果指標」と「詳細指標」については、実施可能性も含めて数値のあり方を今一度よく検討されたい。</p> <p>61ページ「計画の実施体制」について、「環境・エネルギーに関する推進体制」とあるが、環境基本計画の推進体制のことか。地球温暖化対策推進計画・エネルギー計画も含めた全体的なことを言っているようにも読めるが、ここは基本計画の進行管理について記載されている箇所なので、どう整理したら良いか。</p>
事務局	<p>「6つの施策と目標」は「成果指標」で達成状況を計り、12の「取組の柱」は「詳細指標」で進捗管理を行うという位置付けである。その二つで再掲している指標もあり、成果と進捗を図るためにそれぞれの指標を設定することが望ましいと考えており、適切な指標について引き続き検討したい。</p> <p>60ページの第4章は環境基本計画の推進ということで位置付けているが、基本計画のみならず、地球温暖化対策や廃棄物処理などすべてを束ねる新たな組織を新年度に設置することを予定している。基本計画だけでない環境全体に対する庁内体制を予定しているため、その記載のしかたを工夫したい。</p>
会長	<p>時間の関係もあるため、さらにご意見のある方は事務局へお伝えいただきたい。事務局においても意見を踏まえた整理をされたい。</p>

イ 小田原市地球温暖化対策推進計画及び小田原市エネルギー計画の策定について

・地球温暖化対策推進計画・エネルギー計画策定検討部会の経過報告について（資料4）

部会長から資料4に基づき報告を行った。

質疑等はなし。

・全体像について（資料5、参考資料）

事務局から資料5に基づき説明し、協議を行った。概要は次のとおり。

委員	<p>資料5「施策3 廃棄物の抑制」について、燃せるごみの排出量を減らせば資源化率が上がると思われるが、例えば、牛乳パックにプラスチックの注ぎ口が付いているものがあり、取り外すのが大変なため燃せるごみに出している方も多いと思う。つぶすだけで良いとすれば資源化率が上がると思われ、燃せるごみの分別のしかたを工夫してはどうか。</p> <p>また、太陽光発電が普及すればパネルが多く設置されることとなるが、普及し始めて20年経過しており廃棄の問題が出てくる。しかし、廃棄業者があまりいないと聞いており、問題が起きないように業者を紹介するなど最初は行政が主導して取り組んでほしい。</p>
事務局	<p>1点目について、ごみの削減と分別による資源化率向上は地球温暖化対策に資するため、徹底して強化していきたいと考えている。</p>
執行部	<p>2点目について、太陽光パネルの廃棄を扱う事業者も出てきていると聞いている。家庭向けではないが、国でも廃棄費用の積立制度ができたため、自治体としてもできることが出てくると思うので、状況を見て対応していきたいと考えている。</p>
委員	<p>エネルギー消費量について個別に指標等を設定するのではなく、再生可能エネルギーを取り入れて二酸化炭素の削減をしていくという「二酸化炭素排出量の削減」という目標に一本化した方が分かりやすく良いのではないかと危惧している。</p>
会長	<p>エネルギー消費量の削減とはいっても、照明のLED化など消費効率の高いものにしてサービスを維持しながら削減を試みるということである。世界的にもエネルギー危機でエネルギーの不足が懸念される中、効率化していくことが重要である。</p>
委員	<p>そのような主旨の注釈など入れていただくと理解しやすい。普段から環境問題に接している人は分かると思うが、一般の人が見た時にも分かるような内容を検討していただけるとありがたい。</p>
委員	<p>第3章について、住宅などでの取組の記載が割合として多く書かれ</p>

	<p>ているが、業務ビルなど建築物での対策も重要であるため、市民の方々のご協力のほか、多くの産業や事業者の方々に関わっていただけるような形で対策を進めていただくと有り難い。</p> <p>また、適応策は範囲が広いことから、民間企業の方々を含めた多くの方々と連携して取り組んでいくことが重要であると考えている。</p>
委員	<p>「市が率先して環境対策に取り組む」という記載があるため、例えば、電気自動車はプラグインハイブリッドが大多数であるため、市の駐車場で 100V のコンセントを提供し、それを事業者にも展開するなど、良い見本を示していただきたい。</p>
会長	<p>2つの計画全体についてだが、用語の使い方で、例えば「指標」と「目標」の使い分けなど、標記のしかたを統一されたい。</p> <p>「第3章 緩和策<地球温暖化対策推進計画（区域施策編）・エネルギー計画>」などの名称は洗練したものに見直してはいかかと思う。</p> <p>さらにご意見のある方は事務局へお伝えいただきたい。</p>

・地域脱炭素促進事業について（資料6）

事務局から資料6に基づき説明し、協議を行った。概要は次のとおり。

委員	<p>3ページ「5 地域脱炭素化促進設備の整備と一体的に行う地域の脱炭素化のための取組に関する事項」の中ほどにある、新たな「地域エネルギーマネジメントシステム」の構築について、これは小田原市だけでやったものか。市だけでは構築が難しいと思われ、新電力や多様な事業者とタイアップしてやっていくべきだと思う。</p>
執行部	<p>今まで構築したのも市単独でできるものではなく、地元の新電力や技術力のある大企業とタッグを組んでやってきた。実証実験ではなくビジネスとして回していくレベルで進めているところが本市の特徴である。委員ご指摘の主旨は承知して進めている。</p>
会長	<p>地域脱炭素促進事業は市が促進区域を設定するということかと思うが、計画のどこに位置付けるものか確認したい。</p>
事務局	<p>資料5・参考資料の3-7ページ第3章の区域施策編の最後に位置付ける予定である。</p>
会長	<p>1ページに「2 地域脱炭素化促進事業の目標」があるが、この計画上の目標との関係はどうなるか。市全体の計画の目標と促進区域の目標とが重複しても問題ないのか。</p>

事務局	<p>同じ目標である。区域施策編の目標に向けて、促進事業もそれに向かって進むという関係になる。</p>
執行部	<p>区域の目標を達成する手段として地域脱炭素化促進事業があると考えている。民間からの提案が期待されるところでもある。</p> <p>新たな計画では高い目標を掲げているとの自覚があり、これまで以上のスピード感をもって、取り得る手段を全てやっていくという姿勢で臨む必要がある。</p> <p>国からも諸制度、財源、認定制度等が提案されているところで、本市もエントリーはしている。目標に向かってチャレンジし、実質9年間でどれだけのことをやれるかが問われている。脱炭素先行地域は5年間の支援をいただけるもので、その前半に注力することとなる。</p> <p>促進区域はこれから始まる制度のため検討を深めていく必要があり、再エネ導入等を推進するエンジンになるものと認識している。</p> <p>市単独でできることは少ないため、財政支援も活用しながら、公民連携やデジタル化などのあらゆるアプローチで取り組む覚悟を持つ段階であると認識している。</p>
会長	<p>法律の改正を受けて新しい仕組みとして計画に位置付けることとなっており、考え方の整理をしていただく必要がある。様々な制度、枠組みやスキームを活用しながら、現在進行中の取組もある中で難しいと思われるが、進めていっていただきたい。</p>

8 報告事項

ア 令和3年度年次報告書について（資料7）

事務局から資料7に基づき報告を行った。

質疑等はなし

9 その他

事務局	<p>今後の予定だが、基本計画については、新年度第1回審議会において最終審議と答申をいただきたいと考えている。それまでの間、審議会でのご意見を踏まえたブラッシュアップとパブリックコメントを実施する予定である。</p> <p>温対・エネ計画については、新年度第1回審議会において素案を審</p>
-----	--

	<p>議いただき、パブリックコメントの実施後、第2回審議会において最終審議と答申をいただきたいと考えている。</p> <p>従って、2つの新たな計画は審議会1回分ずれる形で策定していきたいと考えている。</p>
会長	<p>基本計画についてはもう一度最終審議の機会があるとのことだが、案としては固まっていくので、追加して意見があれば事務局にお出しいただきたい。その後、場合によっては事務局・部会長・会長で案を固めていけたらと思う。</p>

以上